

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2016年 2月 17日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	清華大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
()1.研究職 ()2.専門職(医師・法曹・会計士等) ()3.公務員 ()4.非営利団体 (<input checked="" type="checkbox"/>)5.民間企業(業界:未定) ()6.起業 ()7.その他()			

派遣先大学の概要					
中国本土におけるトップレベルの大学。1950年代に工学系中心の大学として編成されたため理工系が依然有名だが、改革開放後は文系学科も充実してきている。経済学・経営・金融はSchool of Economics and Managementで学べるが、一部の経済学の授業はSchool of Social Scienceでも開講されている(ただし英語開講科目はSchool of Economics and Managementが多い)。					
留学した動機					
中国語の語学力を実践の中でもっと伸ばしたいと思い、留学を決めた。また、中国の経済体制は日本と大きく違う点も多いが、その中国でどんな授業が教えられているか興味があったから。					
留学の時期など					
①留学前の本学での修学状況:	2015年	学部3	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2015年	9月~		2016年	1月
	学部3	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2016年	学部4	年生の	S1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2016年	学部3	年生の	2月頃に	行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			40	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			13	単位
	留学後の取得(予定)単位			未定	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2012年	4月入学	2017年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		0ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					

半年の留学を予定していたが、全学交換留学においては秋学期開始が主流であったこと。また、就職活動前に留学を終えることでアピールできる点が増えるため。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
東大の全学交換留学の手続きと、のちにメールや郵送で清華大学から送られてくる案内に従って進めれば問題ない。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
手続きは取っていない。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
持病や歯の定期検診を済ませた。風邪薬などを持参した。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
全学交換留学で加入が義務付けられている「付帯海学」(JEESの学研災付帯海外留学保険)とOSSMA LOCATORに加入した。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
3年次のゼミに半年だけ参加したため、ゼミの単位分割申請を行った。留学中に取得する単位の認定・振替について問い合わせをした。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
2年の冬学期にHSK6級を取得した。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
身分証明を求められたとき(ホテル宿泊、携帯電話購入、銀行口座開設など)、中国国籍以外の方はパスポートを提示すればよいが、中国国籍だと中国独自の身分証明証「身份证」を求められることが多く、場合によってはパスポートが通用しない(近年特に規則が厳しくなっている)ようなので、「身份证」をあらかじめ用意しておく必要がある。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)
※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Labor Economics	3	●	Intermediate Microeconomics	3	
Environmental and Resource Economics	3	●			

Public Finance	3 ●			
Regional Economics	2 ●			
The Cultural Industries	2 ●			

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

学生のプレゼン(グループワークであることが多く、全員が一度は発表に参加する)、課題(授業の復習や、授業内容を踏まえた発展的学習にあたるようなもの)、レポートなどがある授業が多い。負担は日本の大学より重い授業が多いが、個々の科目や担当教員によっても大きく変わる。中国のトピックがテーマの授業でなくても、中国国内の事例はしばしば引き合いに出される。(例: Environmental and Resource Economics では中国の大気汚染や緑化プロジェクトなどが例に出された)

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

一学期に6科目受講した。英語開講科目はLabor Economics, Environmental and Resource Economics, Intermediate Microeconomics、中国語開講科目はPublic Finance, Regional Economics, The Cultural Industriesを受講した。授業時間は平均して(学期途中で終了する講義もあったため)週総計13時間程度、その他予習・復習・課題・プレゼンの準備などに20時間程度。

④学習・研究面でのアドバイス

ウェブ上にレジュメや課題、告知が乗る授業がほとんどで、授業ウェブサイトの把握は重要(授業ごとに違う場所にある場合も)。履修登録もウェブ上で行われる。後に履修を取り消すことができる期間があったので、始めに多く履修登録しておき(履修登録をしないとウェブサイトにアクセスできない授業もある)、あとから取り消して調整した。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

始めは中国語のタイピング速度が遅かったため課題の作成に苦勞した。中国語開講授業であっても、留学生が英語で課題や試験に臨むことを許可する先生もたまにいるようなので、履修を確定する前に相談してみるのも良いと思う。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舍の様子、見つけた方法など)

大学内の寮に申込み、宿泊した。日割り計算で、一人部屋が80元であった。7月末にウェブ上で申込みをした。一般の宿舍の他に、Asian Youth Centerと呼ばれる宿舍(現地学生と留学生が二人でルームシェアできる)があり、こちらの申し込みは早く、6月初めだった。清華大学からのメールの案内に従って申込みをした。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

清華大学はキャンパスがとても広いため、自転車の利用はほぼ必須。お金は現地で中国銀行の口座(学生証と連携させると学生証にデビットカードのような機能を持たせることができ、校内の食堂やコピー機で支払に利用できる)を作り、親族に中国国内の口座から送金してもらった。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

大学内の治安は悪くないと感じた。日本よりも衛生環境は悪いので、体調には十分注意する必要がある。また、中国のトイレには紙が置かれていないことが多いので、ティッシュを持ち歩く必要がある。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳
家賃:2400元 食費:1000元 教科書・ノート代:100元 交通費・その他:30元 計7万円弱
・留学に要した費用総額とその内訳
授業料:東大の授業料のみ、27万円 渡航費:往復10万円 保険料等:5万円 自転車(中古)購入費:200元 計76万円程度
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
受給していない。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
サークル活動には参加していない。授業の学習グループなどでコミュニケーションをとるも、親しい友人があまりできなかったため、参加すべきだったかもしれないと反省。9月末のある週に学生宿舎付近でテント列がたち、そこでサークルの応募が行われる。
派遣先大学の環境について
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
International Student Officeが支援をしてくれた。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
複数の大きな図書館があり、充実している。パソコンスペースも図書館の中にある。大学のネット回線からは有料の学術サイトなどにもアクセスできる。また、備え付けのパソコンから印刷するには、支払いのため中国銀行の口座とつなげてお金をデポジットした学生証が必要。ちなみにZi jing Student Service Center(C楼)の一階の印刷所では、データをUSBで持ち込んで、現金で印刷やコピーができる。食堂は現金で支払える場所もあるが、Registrationの日に作るランチカードがどこでも使えるので便利。中国銀行の口座とつなげてお金をデポジットした学生証が支払いに使える食堂もある。
留学と就職活動について
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響
中国と日本では様々な事情や慣習が違うが、どこの国で働くにしても、結局根本のところは変わらないのではないかと感じた。
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

<p>特になし。</p>
<p>④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください</p>
<p>()1.研究職 ()2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) ()3.公的機関(機関名:) ()4.非営利団体(団体名又は分野:) ()5.民間企業(企業名又は業界:)</p>
<p>留学を振り返って</p>
<p>①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感</p>
<p>日本はいろいろなものが便利で安全な国と言われているが、その日本から出ても、慣れれば快適に暮らすことができたので、海外、または未経験の環境で生活することに対して自信がついた。また、清華大学の留学生には、華僑・華人の方も多かったが、中国本土と似た文化を共有しつつ違いも多い彼らとのコミュニケーションを通じて、中国及び中国文化に対する視野が広まった。</p>
<p>②留学後の予定</p>
<p>学部4年に在籍する予定。</p>
<p>③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス</p>
<p>私は現地の学部生とあまりコミュニケーションが取れなかったことが反省点だったので、現地学生と関係を築ける機会をどうぞ見つけてください。</p>
<p>その他</p>
<p>①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物</p>
<p>清華大学日本人留学生会オフィシャルブログhttp://tsinghua-japan.at.webry.info/</p>
<p>②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。</p>
<p>Auditorium: 清華大学の代表的な建築の一つ。学期初めの留学生向けのオリエンテーションもここで行われた。School of Economics and Managementの建物。図書館がある。ただ、学部生の授業の多くはここではなく、複数の教室棟で行われた。</p>

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2016年 7月 11日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	清華大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/> 1.研究職 <input type="checkbox"/> 2.専門職(医師・法曹・会計士等) <input type="checkbox"/> 3.公務員 <input type="checkbox"/> 4.非営利団体 <input type="checkbox"/> 5.民間企業(業界:) <input type="checkbox"/> 6.起業 <input checked="" type="checkbox"/> 7.その他(未定)			

派遣先大学の概要

中華人民共和国にある北京大学と並ぶ中国でのトップ校。歴史的には工学科を中心とする大学であるが、最近では経済、経営、法、公共管理等の文系方面にも力を入れている。特に、私が在籍していた経済経営学院は、MBA、EMBAコースの設置、学生への豊富な留学機会の提供、英語による授業の充実、国際的に著名な経営者や大学教授等による講演、企業や政府による支援の下での学生の起業を支援するインキュベーターなど、さまざまな資源を用いて豊富な教育機会を提供している。

留学した動機

2点ある。1点目は、中国そのものを知り、また中国の友人を作るために、中国の大学で留学したいと思ったということである。その背景として、政治的、経済的、文化的に中国は世界における重要性を増しており、中国への理解や人脈は自分の将来のどの職業においても有用だと思ったということがある。2点目は、そうした中国内での留学という条件下で、法学以外に経営学を学びたいと考えたためである。中国のトップ校で中国のリーダーを輩出し、かつ英語による経営学の授業を提供する清華大学経済経営学院が、そうした2つの条件を満たしていたため、そこへの留学を決めた。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2015年	学部3	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2015年	9月～		2016年	6月
	学部3	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2016年	学部4	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2016年	学部4	年生の	7月頃に	行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			53.5	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			11	単位
	留学後の取得(予定)単位			38	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2013年	4月入学		2018年	3月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		0ヶ月間		

⑨留学時期を決めた理由:

1年間の留年を想定することによって、比較的余裕をもって留学中、あるいは留学前後に学業に集中して取り組める時期であると考えたから。また、留学そのものが1年間であること理由としては、言語の習熟度や、留学生活への慣れにおよそ半年程度かかり、残り半年でより深くその国独自の状況を、その国の言語等を用いて学ぶことができると考えたからである。

留学の準備
①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
<p>清華大学からは、どの学部にも属するかを留学の年の3月ごろに書類に記載し、それを提出するように求められた。その後、清華大学での審査があり、同年5月ごろに結果が分かったはずである。3月までには、どの学部で学ぶかということを確認する必要がある。文系面では、経済管理学院、公共管理学院、法学院、社会科学学院、公共管理学院、国際関係学院があり、日本的な認識でいうと学ぶ内容が重複したり、あるいは微妙な違いがあるため、事前の十分な情報収集を要する。ただし、交換留学の場合、留学の開始時に、割合柔軟に学部所属の変更が認められるようでもある。</p>
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
<p>X1ビザ。東京の中国大使館に申請後、1週間程度で入手した。中国での生活を開始したのち、新たに中国で「外国人居留許可証」を入手する必要がある。これは大学を通じて行うものだが、1か月程度かかる。その中国での手続きを開始したのちちょうど一か月後に中国では長期休暇があるため、その長期休暇が始まる前に居留許可証を入手できるよう、早めの手続きをお勧めする。</p>
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
<p>中国での居留許可証の入手のためには日本、あるいは中国で指定の検査を受ける必要があり、一般的な検査では承認されない。授業開始2週間前ほどに中国に到着した場合であれば、中国到着後でも検査を受ける時間的余裕はあるだろう。予防接種は、狂犬病、ジフテリア、肝炎、おたふく風邪の接種を受けた。</p>
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
<p>東京大学から斡旋される「付帯海学」に加入した。</p>
⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
<p>法学部では、法学部用の書類を提出するとともに、教授による面接を受けた。</p>

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

留学前にHSK4級を取得していた。しかし、語学ではなくある学問内容の学習や中国での文化等理解を目的とした場合、1年間という留学期間を考えると、また中国における英語の普及状況を考えると、やはり事前に中国語レベルをHSK6級レベルにしておいたほうが良かったと反省している。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

中国の冬は寒いですが、一方でコート類の値段は日本より割高であるため、コート類は持参することをお勧めする。その他は、現地で購入すれば事足りるかと思われる。出発前にしておくことは、やはり中国語の語学能力の強化であろう。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
General Management	2	●	Management of Technological Innovation	2	●
Business Communication	2	●	Marketing Management	2	●
Speaking Chinese(1)	6		Selected Reading of Current Affairs(3)	2	
International Business	2	●	Speaking Chinese (2)	4	
Corporate Strategy	3	●			

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

経営学の授業は基本的にはグループワークを伴う。グループワークによる論文提出やプレゼン、期末試験、授業出席により点数評価がなされる。その中でもとりわけ印象に残っているのは、ビジネスコミュニケーションの授業である。これはグループワークによるビジネスプランの作成を題材にしつつ、隔週の授業ではプレゼンのレクチャー、トレーニングを受けるというものである。隔週毎回英語によるプレゼンを行い、またプレゼンの技術的側面、ビジネスプランそのものの側面から厳しくフィードバックを受けつつ行う授業のため、負担も大きく、チーム内での諍いも生じるが、その分自分の能力アップに非常に役に立った。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

一学期あたり5科目(約14単位)を履修。週当たり、授業時間は15時間ほど、授業以外の学習時間は25時間。

④学習・研究面でのアドバイス

従来の自分の専攻とは異なる分野を専攻する場合、授業選択前にその分野のだいたいの構造を把握し、自分がどの分野につき集中的に学習したいかを明確化するべき。たとえば、経営学では、計画、組織、リーダーシップ、管理のように別れており、そのうち計画を中心にしたい、というようにである。なぜならば、その背景知識がない場合、授業の科目名からだけでは本当に自分が学びたいものかどうか分からないということになりえ、かつグループワークもあって1科目ごとの負担が重いため、自分の学習目的を効果的に達成できない恐れがあるからである。その他、経営学を学ぶ場合、ただ学問として学ぶだけでは張り合いがないと感じるのではないと思われるため、インターンシップを同時に行ったり、学生団体に入っていたり、具体的に得た知識を同時に生かせる場があるとより効果的に、意識高く学べると思う。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

漢字を理解できる日本人にとって中国語の一番の困難は、リスニング、スピーキングだろう(その他の語学でも同様のことがいえるが。)中国語を用いて授業についていくためには、HSKでいえば6級レベルが必須であると思ったほうがいい。目的に照らし、留学を最大限効果的なものとするためには、まずは事前に中国語力を最大限あげることをお勧めするが、それと同時に留学の期間中、どの時期を集中的に語学力アップに充てるか、ということも計画的に考えるべきである。留学開始後、すぐに外部のマンツーマンの語学学校に1か月かよい、早めに中国語の素地を作る、というのも有効な手段であると思う。(大学での授業では、アウトプットの機会が少ない。)なお、日本語を学習している中国人も多いため、ランゲージパートナーは比較的簡単に見つかるだろう。

生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
清華大学には、一日50元(1)と80元の寮がある。80元の寮のうち、一つは一人の小部屋(2)、もう一つは中国人の院生と3部屋のルームシェア(1部屋ずつは個室、残り一部屋を共同使用)(3)がある。(1)、(2)は紫荆公寓と呼ばれる寮、(3)は亞洲青年交流中心と呼ばれる特殊な寮である。私は(3)を利用した。中国人との交流、施設の新しさ、教室等のその他の施設との位置関係からして、(3)を強くお勧めする。(3)への入寮には事前の申請が必要である。清華大学からメールにて案内が届くはずであるが、届かない場合、清華大学に自ら問い合わせるとよいかと思われる。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
冬は非常に寒い。コート類、厚手の靴をしっかりと用意すべき。空気は悪いので、PM2.5用マスクを準備すべき(現地でも購入可)。清華大学内は自転車で移動、現地到着後購入。市内は地下鉄とタクシーを併用。食事は基本的には大学内の食堂を利用、一食10元以内で済む。お金は、「キャッシュパスポート」という国際プリペイドカードを使用した。中国内の基本的にあらゆるATMで引き出し可能なので便利。中国では「中国銀行」の口座を開設し、WechatやAlipayと連結させて、電子マネーとしてたびたび使用していた。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は基本的には良い。ただ、交通マナーは日本人にとって日本と比べると悪いので、交通事故への注意が必要。医療機関については、信頼できる医療機関の数が、患者の数と比べて不足しているため、病気になった際などには、事前の予約等が必要で、その手続きも煩雑である。留学だからといって、日本人との交流を完全に遮断しようと思う方もいるかもしれないが、心理的に困難に陥った場合など、やはり一義的には日本人が助けになりやすかったり、また各種情報も日本人から入りやすいこともあり、適切なバランスを考えるといいと思う。
④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
・毎月の生活費とその内訳
授業期間中についていえば、毎月2500元程度。1500元:食費(カフェ等も含む)、500元:交通費、500元:教材、娯楽費等。
・留学に要した費用総額とその内訳
航空賃:10000元(日本への一時帰国、香港等への旅行を含む)。授業料:東京大学への授業料(全学交換留学のため)。教科書代:1000元(一教科平均60元ほど+補助教材)。家賃:24000元(一日80元×30日×10か月)。食費:20000元。交通費:5000元。娯楽費は、カフェ、飲食、旅行の交通費等として上の各項目に含んだ。総計:60000元+東京大学への2学期分の授業料。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
東京大学海外派遣奨学事業2015年度海外留学等奨学金。東京大学からの案内に依った。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
2学期目に中国の高齢者産業の協会でインターンシップを行った。日本の高齢者に関する市場状況、制度等の調査、中国市場に進出する日本企業へのアウトリーチ等を行った。 週末は、授業の予習・復習・課題や、市内観光等を行った。 長期休暇は、中国の友人との旅行、その友人宅への滞在を行った。

派遣先大学の環境について
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
語学面:どの学部にも所属していても、留学生向けの中国語の授業を受けることができ、またレベルに応じた種類、数も十分である。学習面:清華大学の教授は(私が受講した授業の教授は)、学生からの学習からの相談にも非常に親身に対応してくれる。生活面:基本的に中国の現地の学生は留学生に対して非常に親身で、困ったことなどあれば積極的にその解決に力を貸してくれる。精神面でも中国人の友人がサポートしてくれる。大学としても、バディシステムを公式に持っており、そうした現地の友人作りの協力を行っている。精神面での困難があった場合の相談室も整備されているようである。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
大学全体として文系向け、理系向けの図書館が1館ずつ2館ある。また、各学部ごとに独自の図書館を有しており、図書資源は豊富であり、学生は図書館を学習スペースとして積極的に使用している。また、校内にジムや体育館、運動場、テニスコート等があり、十分である。食堂は10数施設あり、また値段も安く、中国料理に抵抗がなければ問題はなかろう。寮の各部屋でLANケーブルをつなげるようになっており、また校内で大学用のWifiが使用できる。ただ、毎月の使用量の制限があり、それを超えて使用する場合は、銀行口座からの入金が必要である。
留学と就職活動について
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど
就職活動を行っていない。
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響
3点ある。1点目は、就活先は日本だけでなく世界全体に存在するのだと思うようになったこと。2点目は、中国語能力や、中国での生活体験を就活の際のアピールポイントにしうるかと思うようになったこと。3点目は、留学を通じて職業の種類に関して興味範囲が広がったこと。3点目につき、具体的には、日本の強みを海外の組織に生かすためパートナーシップを促進するというような職業、テクノロジーに関する職業、教育に関する職業への興味を持つようになった、あるいはそれへの興味が深まった。
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)
就職活動に入るかどうかは不明だが、中国現地で働いている日本人の方との交流を、日本にいる時よりも持ちやすかったように思う。各種学生団体が社会人との交流イベントを開いていたり、現地の日本人がホームパーティや趣味の会などを開いており、そうした場に参加することでそれぞれの職業分野に関する情報を集めたり、自分の興味を探ったりできた。
④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください
()1.研究職 ()2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) ()3.公的機関(機関名:) ()4.非営利団体(団体名又は分野:) ()5.民間企業(企業名又は業界:) ()6.起業(分野:) (✓)7.その他(未定)
留学を振り返って
①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
留学の意義、あるいは成長したこととして8点ある。1点目、留学以前よりも言語の重要性を認識するようになったこと。今後も言語力を伸ばし続ける必要性を認識できた。2点目、専門でない経営学につき、多少の知識を得るとともに、それをどう現実に応用でき、また応用できないのか知れたこと。3点目、インターンを通じて外国語を用いて仕事をできる実感、若干の営業力、調査力を伸ばすことができた。4点目、中国留学を通じ、中国人の価値観、コミュニケーションの方式、世界観、アイデンティティ、日本への認識、政治・社会・経済状況等の一端を知ることができた(=今後学ぶ土台を作れた)。5点目、積極的に人にかかわり、自分の目標を達成していく人間関係の構築力を伸ばすことができた。6点目、一定程度、中国語、英語力を伸ばすことができた。7点目、日本をより相対的に見ることによって、日本そのものへの理解を深めることができた。8点目、中国人、日本人、その他含め、また学生、社会人含め、今後につながる貴重な人間関係を作ることができた。

②留学後の予定

インターン等就職活動を通じ、卒業後の就職先を2017年1月まで模索し、1月に就職先の候補を絞り込む。その後、2017年4月から7月までの間にその就職先につけるよう準備を行い、7月ごろまでに就活を終える。2018年3月に卒業できるよう、単位を取得する。

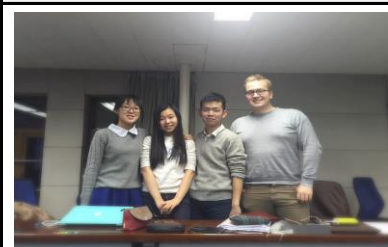
③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

社会人になってから、あるいは院生になってから留学してもいい、と考えられている方もいると思うが、学部生は学部生なりのある意味「自由」な交換留学がある、という認識を持たれるといいと思う。就職前に、視野を広げてみるとか、新たに学びたい分野を学ぶ機会としての学部生の留学の良さがあるだろう。それとは別に、留学というそれまでとは異なる環境であるからこそ、自分がその期間に得たいと思う能力等があれば、それを達成するための行動を早期に習慣化する必要があるだろう。留学中はやはり心理的ストレスもあり、あるいは新たな刺激もありどこか自分のしたいことがぶれ易い。それはそれでいいのだが、ぶれているだけでは、留学前に得たかったものが留学後に結局得ていない、ということになりかねない。そこで、フレキシブルに使う時間はそれはそれで持ちつつも、留学前の目標を達成するための行動は、しっかり一年を通じ習慣的に継続することで、留学前の目的も達成しつつ、新たな世界を広げることができるだろう。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2016年10月2日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	清華大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

清華大学は、北京市海淀区に所在する中華人民共和国の副部級大学である。1911年に創立された。

留学した動機

中国社会の動向と自分の進路を見極めるため。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2015年	学部2	年生の	A2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2016年	1月~	2016年	6月	
	学部3	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2016年	学部3	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2018年	学部4	年生の	3月頃に	行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			14	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			0	単位
	留学後の取得(予定)単位			62	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2014年	4月入学	2019年	4月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		0ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					

単位が十分に取れれば留年せずに済むため。

留学準備**①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)**

先生方に迷惑をお掛けしないためにも必要な手続きを一つ一つ確認することをお勧めします。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

特になし

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特になし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

所定のもの。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

丁寧にガイダンスをしてくれるので、それに従うと良いです。また、メールをこまめにチェックしてください。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

特になし

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

Kindle

学習・研究について**①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)**

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
国際関係論	3				
現代中国社会	2				
日本研究	2				
比較政治学	3				
中国政治	2				

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

中国でしか学べないこと・中国独特な視点を持った勉強をするよう心掛けました。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

12単位。授業ごとに週2~3時間予習と復習を行いました。

④学習・研究面でのアドバイス

学業の負担はかなり多いので、むやみに他のことに手を出して課題をこなせなくならないよう気を付けてください。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

学生用の宿舎あり。シングルルームの方がスペースが広く快適。留学生との交流がしたいのであれば二人部屋やABルームもお勧めします。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

大気汚染がとてもひどいので、気になる人はマスクを用意するとよいです。留学生宿舎から最寄り駅までは徒歩&バスで30分ほどかかり、また、学内も非常に広いので、スクーターを購入すると便利です(自転車でもよいが、駅まではかなり遠い)。食堂は学内にいくつもあり、それぞれ多様な料理を提供しています。また、出前サービスがかなり普及していて、値段も店舗で食べるのとあまり変わらないので、おすすめ。Uberなどのタクシーサービスも安いし便利なのでおすすめ。あと、学内のインターネット環境は非常に悪いです。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

詐欺が多いです。電子機器やSIMカードの契約を行うときは出きれば現地の人と一緒にいきましょう(清華大ではBuddy programがあるので利用すると良い)。病院は基本的に中国語しか通じないので気を付けてください。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

月4000元ほど。家賃が1500元、食事が1000元、その他交際費、交通費が1500元ほど。北京の物価は案外高いので、節約しないとさらに増えます。

・留学に要した費用総額とその内訳

50万円ほど。生活費がほとんどです。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東京大学奨励費超短期奨学金

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

インターンをしていました。また、ポーカーやボードゲームのサークルの立ち上げに携わりました。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

サポートはかなり手薄です。自力更生です。Buddy programなどで親切な中国人学生に色々教えてもらうのが一番ですね。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

割と充実しています。使い方さえ理解できれば使い勝手はよいです。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

実際にインターンなどを行い、中国で働くべきか見極めるチャンスとなった。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

特になし

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- | | |
|--|--------------------------|
| | 1. 研究職 |
| | 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) |
| | 3. 公的機関(機関名:) |
| | 4. 非営利団体(団体名又は分野:) |
| | 5. 民間企業(企業名又は業界:) |
| | 6. 起業(分野:) |
| | 7. その他() |

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

中国の社会のリアリティに肉薄できた。自分の進路について考える機会となった。多くの中国人の優秀な学生や社会人と触れ合う機会にもなり、良い刺激となった。

②留学後の予定

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

大学のサポートや知人友人もいないなか、一人で暮らすと案外目標を見失いがちです。留学生友達(日本人留学生でもよいので)や中国人の学生などお互いに目標や成すべきことを確認しながらモチベーションを維持してください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。